

2019.6.20
vol.76

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品 『黄金の腕』



6月20日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

フランキーは、ポーカー博奕の手入れでレキシントンの連邦麻薬対策病院で6ヵ月を過ごし、シカゴに舞いもどった。フランキーは以前の仲間に歓迎されるが、妻にレキシントンの病院で習ってきたドラムで生活しようと語る。しかし、車椅子に坐ったままの美しい妻ザッシュはそれを喜ばず、トランプ賭博で「黄金の腕をもつ男」といわれているくばり手の腕を使えとすすめる。

監督：オットー・プレミンジャー

出演：フランク・シナトラ

エリノア・パーカー

キム・ノヴァク

製作：1955年 アメリカ モノクロ 115分

『淀川長治映画ベスト 1000』	淀川 長治／著	河出書房新社	778.2
『知っておきたい映画監督』外国映画編	キネマ旬報社／編	キネマ旬報社	778.28
『最も危険なアメリカ映画』『国民の創生』から『バック・トゥ・ザ・フューチャー』まで	町山 智浩／著	集英社インターナショナル	778.253
『シナトラ』	三具 保夫／著	駒草出版	767.8
『クレジットタイトルは最後まで』	川本 三郎／著	中央公論社	778.04
『フィルムノワールの時代』	新井 達夫／著	鳥影社	778.2
『シカゴ、シカゴ』	ネルソン・オルグレン／著	晶文社	934.7
『荒野を歩め』	ネルソン・オルグレン／著	晶文社	933.7
『カルメン』	オットー・プレミンジャー／監督, 製作	20世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン	778.253
『めまい』	アルフレッド・ヒッチコック／製作, 監督	ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン	778.253

「ハリウッドの問題児」と言われたプレミンジャー監督の「問題作」 K.M.

今回上映の『黄金の腕』は1955年製作のオットー・プレミンジャー監督作品です。日本公開は翌1956年。題名と主役くらいの予備知識だと、この作品は、あのショービジネスで華麗に生きるフランク・シナトラの映画だから、腕一本で逆境を乗り越えていく痛快なワルたちの話かな、と思いたくなりますが、実際に観てみると全く違うのでびっくりするはず。公開当時高校生だった私もそうでした。が、本作を手がけたオットー・プレミンジャー監督は、1953年の「月蒼くして」という作品で、当時としては過激な性表現の台詞が問題となり、映倫から自主規制を促されたにもかかわらず、従わずに上映に踏み切り、「ハリウッドの問題児」ともよばれた人です。

『黄金の腕』は、その彼が次いで、当時のアメリカの重大な社会問題でありながら、映画界ではタブーの題材であった「麻薬依存症の恐ろしさ」を真っ向から取り上げ、犯罪映画を規制するヘイズ・コードによる障壁を乗り越え、米映倫をパスしないまま上映に漕ぎ着けた、歴史的な意義をもつ作品なのです。当然、内容的には明るいものではなく、この作品は、初見時の私にはなかなか感情移入しにくく、映画音楽に初めてモダンジャズを取り入れたといわれ、冒頭から全編に流れるエルマー・バーンスタイン作曲のテーマ曲「Frankie Machine」の、粹でパワフルな印象だけが後をひきました。

今回、上映に先立ち60数年ぶりにDVDでこの作品に再会してびっくり。高校生の私には、音楽以外その良さがわからなかった作品でしたが、今観ると、実に見所の多い魅力的な作品に思えてきました。見所は沢山ありますが、特に次の2点にご注目ください。

【フランク・シナトラの半端ない名演技】

当初、製作者側はマーロン・ブランドを起用する計画だった主人公フランキー役をシナトラが熱望して獲得。当時の恋人、キム・ノヴァクとの共

演を果たしたというエピソードがあるそうです。「歌のうまい可愛いイタリアン兄ちゃん役」から『酸いも甘いも知るクールな壮年の男役』へと、役柄の幅を広げたい意欲が強かったといわれています。デビュー期からイタリア系マフィアとの深い関係が度々取りざたされていたシナトラです。フランキー役を演じられる自信があったのかもしれませんが、ごく短いシーンだけで残念だったのですが、やたらと迫力あるカードの捌きっぷり、気分の悪くなった時の、汗・ふるえる手、そして目や口元の変化や心が折れる瞬間とか、折れたら最後、一刻も待てない感じとか、そして激しい禁断症状など、彼の迫真の演技は見ものです。

【純真さと妖艶さとを兼ね備えたキム・ノヴァクが熱演する天使のような女性モリーの魅力】

この作品の登場人物は、殆どフランキーを必要、強いて言えば彼に「依存・束縛」しています。唯一フランキーを支えようとするのがモリーです。彼女はバーでのシーンでもわかるように、離れて見ている側。会話には参加せずとも、カメラはフランキーの肩越しにこちらを見ているモリーを捕えます。自分から頼ることはなく、しかし助けを乞う人は支えてあげる、それがモリー。彼女こそが、フランキーを本気で愛し、真の意味で助けようとしてくれます。禁断症状を最初に乗り越えたのは、モリーがオーディションに関して助言した時でした。彼女が与えた希望が、麻薬への執着を忘れさせ、一時ですが悪い仲間の誘いを断らせます。そしてモリーは自分の部屋を彼に明け渡します。もちろん本当の麻薬治療はあれ以上なのでしょうが、二人の愛の象徴として、窓から新鮮な空気を吸う二人の姿が、散々空気のこもった雰囲気をもつ本作で一瞬輝いて見えます。麻薬に限らず、あらゆるものに対する「依存問題」に対しての対し方のヒントが、モリーという女性像に見える気がします。キム・ノヴァクってこんなに美しく魅力的だったのかと改めて感じ入っています。

誰にも共感できないけれど…… E.M

ネットで『黄金の腕』の評価を眺めてみると、「面白い」と「つまらない」が極端に分かれていました。確かに、ポスターや音楽はカッコイイし、シナトラとキム・ノヴァクの演技もイイ。でも、出演の二人を含め誰にも共感できないし、現在の視点からは安易なストーリーに思えてしまいます。でも「映画は時代を映す鏡」。この映画が作られた社会背景と人々の感情は、今とそう変わらないような気がします。これをどうしたらハッピーエンドにできるのか、ちょっと考えてみるのもいいのでは。



5/16 『素晴らしき放浪者』の感想

- ・現実では考えられないほどの「自由人」でしたね。きっと観ている人は、うらやましくもあり、という想いです。
- ・楽しいが、ヒーローにはいい男を使ってほしかった。
- ・あのような人生もあるのかなあ？と思いました。ありがとうございました。
- ・浮浪者を丸ごと受け止め、受け入れる社会の寛容さがすばらしい。今の社会はだいぶ不寛容になっているのではないか。
- ・奇想天外で、不思議な映画でした。主人公のブーデュと『フーテンの寅さん』がダブリました。とにかく勝手気ままで、周囲の人への迷惑もお構いなし！「我が道を行く」です。現在でも、社会の中で、周囲の人とうまく言おうできない人が増えています。仕事をしない、結婚をしない、束縛されるのは嫌!! 辛い、非生産的な生き方です。現代人への警告のようなテーマでした。では、どうしたらいいのでしょうか？
- ・主人公をはじめとする登場人物の感覚や行動は、日本人には理解しがたいです。
- ・流され、どこへ行くの？ 日本映画では無理、フランス語、イイネ!
- ・あんな生き方もあるのかな？という感じ。日本人に入るのかな？ でも、本屋の主人の気の良さもあり得ない!
- ・しがらみのない人生がいいということのようですが、一般的ではない。でみ、楽しく自由でいい。私たちの生活から離れて、平和と自由がいいということかしらね。でも、みんなが気にかけてくれることは、人にとって大事でしょうね。
- ・あんなメチャクチャな映画があるなんてびっくりしました。でも、なぜか素敵な気がしました。ありがとうございました。
- ・おもしろくおかしく、楽しい人生ですね。

注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリングループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



第77回上映会のご案内

ゴリオ爺さん

字幕上映

LE PERE GORIOT



7月18日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

苦勞に苦勞を重ねて小金を貯め、ふたりの娘をそれぞれ大貴族と銀行家に嫁がせたゴリオ爺さん。自身は貧乏下宿でつましい生を送りながら、やがて非業の死を迎えることになる彼を看取る、若き学生のラスティニャック……。ふたつの人生を交差させるようにして、19世紀の断面が切り取られてゆく――。

監督：ジャン＝ダニエル・ヴェルハージェ

出演：シャルル・アズナヴール、

チェッキー・カリヨ、

マリック・ジディ

製作：2004年 フランス カラー 100分

2019年度の上映のご案内 (上映作品は変更になる場合があります。)

2020年1月～3月ホール改修工事のため、2019年度の上映会は下記の通りとなります。

第76回	6月20日(木)	『黄金の腕』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第77回	7月18日(木)	『ゴリオ爺さん』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第78回	8月22日(木)	『ティファニーで朝食を』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第79回	9月19日(木)	『自由を我等に』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第80回	10月17日(木)	『終着駅』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第81回	11月28日(木)	『キリマンジャロの雪』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第82回	12月19日(木)	『ビューティフルメモリー』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~

上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。